
三年P組 ゲン八先生

栗太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三年P組 ゲン八先生

【Nコード】

N8212Q

【作者名】

栗太

【あらすじ】

これは、新たな冒険者の新形態。ダメ作者栗太の描く、超八チャメチャコメディ全開、自己満乙な学園モノ。

どうしてだ・・・なぜこうなった!?

新たな冒険者達のキャラは崩壊、年齢なんて、作者権の乱用でどうにでもなるのさ!

さあ、覚悟はいいか？ 超八チャメチャ学園コメディ、ココに開幕だ!

1：作者の執筆している時刻と、キャラたちが騒いでいる時刻は必ずしも一致
反省はしている、後悔はしていない

1：作者の執筆している時刻と、キャラたちが騒いでいる時刻は必ずしも一致す

国立甘栗高等学校。そこは、優秀な国家ポケモントレーナーを育成するための施設。ココに通う生徒たちは皆、ポケモントレーナーとなる為に日々、勉強に励みポケモンバトルの訓練を行なっている。この物語は、そんな甘栗高校のあるクラス、3年P組を舞台に繰り広げられるドタバタ学園コメディ。

某年4月16日（水） 日本 甘栗高等学校 3年P組

「と、いうわけで。現在高校に通っている俺なのだった」

4

「どうしたんですか、ユウキさん？」

「気にすんなよハルト、どうせ持病”なんたら症候群”の発作だ」

突然、意味のわからない事を言い出した少年、タチバナ ユウキに対して緑の少年ハルトが尋ねるが、ユウキが答える前にハルトの双子の兄、紅い少年トーマがバツサリと切り捨てる。

「トーマ、てめえな人を馬鹿みたいに……」

「事実だろ？」

ユウキが反論しようとする、トーマは「違うのか?」と言いたげな顔で訊ねると、ユウキは「違うに決まってんだろ!」と机を叩く。

「じゃあ、問題だ。台形の面積の公式は?」

「バカにしてんのかよ。そんなの、底辺×高さにきまってんだろ?」

「惜しかったですね、ユウキさんあと2で割ることを覚えれば三角形の面積が出せますよ」

自信満々に答えるユウキの解答を、ハルトは笑顔でバツサリと。それはもう完膚なきまでに切り捨てた。

*台形の公式： $S = \frac{(上底 + 下底) \times 高さ}{2}$

「おかしいな、今日は左手の調子が悪いみたいだ」

「いや、悪いのはお前の頭だろ」

「なんだと!」

トーマに馬鹿にされ。激昂するユウキ。そんな彼の元へ、また違う少年がちがづいてきた。二人とも黒髪で、一人は長身のツンツンオールバック、もう一人はなんか、なんだろう、なんか…なんか地味な感じの少年だ。その二人組のうちのオールバック、身長と破壊に定評のある少年クラシゲ。ロクが、ユウキを笑い始める。

「ヒャーハツハア!! ユウキ、テメエはんな問題もわかんねエのかよオ?」

「ロク、お前だって分かんねえだろ！」

「あア？　んなアワケねエだろオが！！　オイ、トーマア。なんか問題出せ」

笑われたユウキはロクに言い返すが、ロクはそんな事はないと言
い切りトーマに問題を催促する。問題を求められたトーマは少し悩
んだあと、ロクに出題した。

「じゃあ、円周率を小数点以下二桁まで答える。つてのはどうだ？」

「1・41に決まってんだろオ！」

* 1・41… 2

「あつはつは！　バツカじゃねえの？　1・73に決まってんじゃ
ねえか！」

* 1・73… 3

「3・14だ馬鹿共！　せめて、一の位は正解しろよ！」

「…おかしいな、ジミーの調子が……」

「…あア？　なんか、ザミーの調オ子が……」

「ザミーってなんだよ！　ジミー+ザキってか？　おかしいのはテ
メエらの頭なんスよ、バカコンビー！！」

「ア、ア!? ザキい、テメエは誰に向かって言いやがってんだア
!?!?」

バカと言われたのがよっぽど腹立たしかったらしい、ロクはソネザキの制服の胸ぐらを左手で締め上げ、右手には拳を握りはじめる。

「おお、ロク。やっちまえ! こいつ、お前だけならまだしも、俺までバカにしゃがった!!」

「オウ、そおだなア! 俺だけなら って、待ちやがれエ!
どういう意味だコラア!?!」

さりげなく自分をバカにするユウキに対し、ロクは見事なノリツッコミを披露して見せた。

「つか、朝っぱらからテンション高えんだよテメエら。夜に細々と執筆してる作者の身にもなれや。」

「うーす、めんどくせーけど、SHR始めんぞー。席に付け、どグサレ野郎どもー」

男子生徒を罵倒しながら教室に入ってきたこの男。名前はカツラギゴウカ。彼女いない歴〃年齢÷2のこのクラスの副担任だ。担当科目は国語その出現に、それまで騒いでいた生徒たちはユウキたちを含め、皆席につき始める。そんな中、中央最前列の席に座った女子生徒が口を開いた。

「あれ? なんで変態? はっちは?」

「ああ、ツネヨシは今会議中だ。だから、副担の俺が出席とったりしないといけねえんだよ。てか、アリシアちゃん? 俺のこと変態

って呼ぶのやめない？ 俺様、全然変態なんかじゃないしよ」

「……え？」「……」

ゴウカに質問した桃色ツインテールのちびっ子、アリシア「E」カザナミに対してゴウカが「自分は変態じゃない」と言った瞬間、クラス全体の声が揃った。皆一様に「なにいつてんのコイツ、そんな訳無いじゃん」と行った視線をゴウカに向ける。

「なんだよ、テメエらその目は！ いじめか！？ 新手のイジメなのか！？ ……うう。まあいい、出席とるぞ。」

叫んでからきっかり3秒、すぐに立ち直り出席簿を片手に教室を見回す。通称セクハラサボリ魔。

「そんじゃ、キサラギ」

「うむ」

「クラシゲ」

「おオ」

・
・
・
中略

「タチバナ」

「うーす」

「タナカ」

「俺の名前はD」「次、ホウジヨウ」「無視すんNA!」

「はいじゃ」

・

・

省略

・

・

「ミヤノ ハルト」

「はい」

「ミヤノ トーマ」

「ああ」

「ユキザキ ジン」

「はい」

「よーし、次は女子だなー」

・

・

・

・

略

・
・
・
・

「つぎー、レナちゃん」

「はい」

「ラストー、アヤカちゃん」

「はい」

「よし、全員いるな。そんじゃー連絡。来週の球技大会だが、種目は男子は野球、女子はバレーに決まったから、それぞれ練習しておくよーに。女子の方は俺が練習見てやるから、何時でも相談しに来てよー」

ゴウカの一見教師らしく、しかし下心丸出しのその発言はアリシアの「変態セクハラ」の一言によって切り捨てられ、ゴウカは泣きまねをしながら教室を出て行った。

その後、休み時間を経て一限目の数学が開始され今日も賑やかな3年P組の一日が始まるのだった。

1：作者の執筆している時刻と、キャラたちが騒いでいる時刻は必ずしも一致す

はい、どうもお久しぶり、こんにちは、はじめまして栗太です。

この作品は、完全自己満乙なキャラ崩壊作品です。「こんなのは俺のハルトじゃない!」「私のジンさんはこんな人じゃないんじゃないかな、かな!」という方は、次回以降閲覧なさらないことをオススメします。

そのへん、全然気にしないよー。オールオツケーという方は、どうぞ次回以降もお付き合ってください。では!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8212q/>

三年P組 ゲン八先生

2011年10月9日22時31分発行